

主体的・対話的で深い学びのポイント

・読解の過程を可視化する活動を通して教材文の精読を促すとともに、思考の共有にICTを活用して、協働的な学びを充実させることで対話的な学びを深めことができる。

ICT活用のポイント

・ノートアプリを使用して、読解の過程を可視化したり、繰り返し編集したりすることで、文章を深く分析したり、批評的な読解を促すことができる。

使用するICT機器	iPad、Smart keyboard、Apple Pencil	使用するアプリ・クラウドサービス等	Classi、PDF Expert、MetaMojiNote2
クラウドの活用	☒ 教材の配布・回収等 ☒ 生徒の学習状況の把握	☒ 資料等の共有 ☐ その他（ ）	

本時のねらい

筆者の主張とその根拠とのつながりを読み取り、整理することができる。

	主な学習活動 (学習場面)	ICTの活用・留意点等	評価
導入	○本時の目標と流れを確認する 一斉 ○前時の内容を振り返る 個別	前時で筆者の主張をマーカーでチェックしたPDFデータをClassiで配布する。 クラウド 配布したPDF教材において、マーカーでチェックした箇所とその根拠となる箇所をマーカーでチェックする。 ICT機器 指針2	
展開	○筆者の主張を見つけ、それを支える論理を三角ロジックで整理する 個別 ○各自が整理した三角ロジックをグループで共有し、論理構成図を作成する 協働	マーカーでチェックした箇所を参考に、三角ロジックに本文を当てはめ、整理する。 MetaMojiNote2を使用する上で、テキストボックスを使用しても、ApplePencilで直接書き込んでも良い。 ICT機器 指針2 指針4 各自で整理した三角ロジックについて、画面を見せながら説明する。それぞれが整理した三角ロジックを比較し、グループで筆者の主張を1つにまとめる。 電子黒板を使って、論理構成図の作成方法について説明する。 (※実際に書き込んだ例を示す。) グループで筆者の主張の根拠や事実を図に整理し、それらのつながりを矢印等を記入して論理構成図を作成する。 ここで評価 指針3 作成した論理構成図をグループ全員で共有し、Classiで提出する。 (※共有は、Airdropを活用) クラウド 指針6	 【思】筆者の主張とその根拠とのつながりを協働して読み取り、図示している。
終末	○次時の確認をする 一斉	次時で、グループで作成した論理構成図をスクリーンに投影し、各グループから説明してもらうことを確認する。	

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度